

# 地域博物館が所蔵する資料の 保存と活用に関する一考察

Consideration of the Preservation and Utilization of  
Materials Collected by the Regional Museums

日高真吾

HIDAKA Shingo

はじめに

- ① 地域博物館における所蔵資料の保存活動の事例
- ② 学校教育と連携した地域博物館の活用モデルの提言
- ③ 台湾における地域博物館活動の実践事例
- ④ 結び—地域文化を保存し活用するために

## 【論文要旨】

本稿では、心豊かな社会を実現するために地域博物館が果たす役割を考察するものである。そこで本稿では、まず、地域博物館にとって不可欠な所蔵資料の保存について、限られた人材で取り組んでいる廃校を利用した取蔵施設での実践事例と、地域博物館がより積極的に地域で活用されることを目的とした教育キットの開発事例からそれぞれ考察を加えた。また、地域住民と積極的に連携しながら博物館活動を活性化させている台湾の活動事例から、地域博物館と地域住民との関係の在り方を考察した。

その結果、地域博物館を拠点とした地域文化を表象する資料の保存と活用の在り方について、資料保存という課題では、文化財 IPM の導入と、文化財 IPM コーディネータや PCO、博物館環境を専門とする研究者との連携が必要であることを示した。次に資料の活用については、従来から指摘されている学校教育との連携をあらためて提唱し、その実現のためには、博物館と学校という現場だけで解決するのではなく、国や自治体といった行政との協働が必要であることを改めて強調した。また、台湾の活動事例からは、活動する主体が博物館であれ、住民であれ、それぞれの状況でできることをきちんと整理し、実践する姿勢が大きな特徴であり、この姿勢に日本の地域博物館でも学ぶべきことが多いことを示した。

そのうえで、これからの地域博物館が目指す姿勢として、地域文化の変容を受け入れつつ、変容前の地域文化についても理解を深めて継承しながら、地域文化の保存と活用を図る「文化継承主義」に基づいた活動モデルを提唱した。

【キーワード】 地域文化, 地域博物館, 文化財, 東日本大震災, 保存科学